

めまいの症例

三谷 和男 三谷ファミリークリニック・京都府立医科大学

はじめに

めまいは日常の診療では比較的良好にみられる症候であるが、器質的疾患をまず否定しておかないといけない。注視眼振がみられれば脳幹・小脳片葉の障害を疑い、自発眼振がみられれば Frenzel 眼鏡検査を施行し末梢前庭性で増強されることを確認する必要がある。さらに、起立性低血圧症 (Schellong 試験)、良性発作性頭位眼振 (Benign Paroxysmal Positional Vertigo) についてもみておく。こういったことがクリアされれば、次に起立性調節障害のチェックを行う。こういった common diseaseこそ、気をつけて鑑別する必要がある。私たち漢方診療に携わる医師の外来を受診するケースは、専門医の診療を経てなお、めまいがよくなること、もっとほかに打つ手はないのかと思うことがきっかけである。

症例 1 めまい

患者：○谷○代，38歳，女性。

主訴：めまい。

既往歴：特記すべきものなし

現病歴：20××年1月に入った頃からめまいを自覚する。近医（耳鼻咽喉科）から総合病院・耳鼻咽喉科を紹介され精査を受けるも、原因を特定することはできず、ベタヒスチンメシル酸塩とエチゾラムを投与される。漢方治療を希望され、5月△日当院来院。

「どうされましたか？」

「はい、今年に入ってからなんとなく身体がフワフワした感じで、ふらつくんです」

「何か、きっかけはありましたか？」

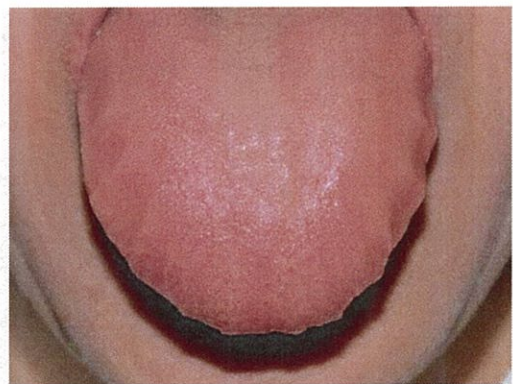
「いえ、特には……」といったやりとりが続く。

身長 154.6cm，体重 56kg。栄養状態は良好。二便に問題はない。食欲はあるが、食事のスピードが速いことを指摘されている。眼瞼結膜は貧血様。

漢方医学的所見：脈状：やや浮・緊。舌所見：舌質は淡紅色で腫大。歯痕が目立つ。舌苔は薄い白浄苔で同様（写真1）。腹証：心下痞硬（とくに鳩尾に向けて抵抗がある）。臍周囲の抵抗はない。

処方と経過：漢方治療で「めまいの処方は？」と問われると、真っ先にあげられるのは苓桂朮甘湯である。脈状・舌所見（津液のありよう）から考えて矛盾はない。しかし、それだけでよいか？ 急性期、

写真1



それも何らかの胃腸症状が先行しているケースでの苓桂朮甘湯は非常に切れ味が鋭いが、本症例では慢性化している。もう一度舌所見に戻る。色調から考えて陰が虚していると考え。そこで四物湯を合わせて連珠飲とした。連珠飲は浅田宗伯『勿誤薬室方函口訣』に「此の方は水分と血分と二道に渉る症を治す。婦人失血或は産後、男子痔疾下血の後、面部浮腫、或は両脚微腫して、心下及び水分に動悸あり、頭痛眩暈を發し、または周身青黄浮腫して黄胖状を為す者に効あり」とあり、本症例に適応と考える。ほぼ10日間の服用で改善した。その後も、○谷さんにとっては常用の方剤となっている。

症例2 めまい・揺らぎ

患者：△川△実子，44歳，女性。

主訴：めまい・揺らぎ感。

既往歴：小児期に喘息。

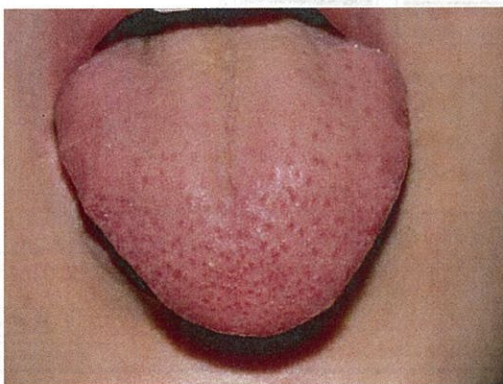
現病歴：20△△年8月下旬より，何かをしようとするときフワッとした感じを自覚する。特に気にしないように努めていたが，家事をする際にも支障を来すようになり，9月20日に耳鼻咽喉科を受診，頭部のMRI検査を受けるも特に問題はないといわれ，漢方治療を求め来院。

「どういったことでお困りですか？」

「はい，炊事の際に食器を洗ったりしているときにフラッとします」

「振り向いたりしたときですか？」

写真2



「いえ，ちょっと鍋の方に目をやったりしたときです」「横揺れのめまいですか，グルグル回るのですか？」

「いえ，めまいというほどのことはないのですが，フラッとします」

西洋医学的には問題はない。しかし，この不快な感じを何とかしてほしい……そんな願いに応えようとするのが漢方である。

身長162.2cm，体重58.7kgと痩せておられる。食欲は落ちている。便通は，2日に1回で便秘はない。漢方医学的所見：脈状：やや緊・弦（特に関上の脈）。舌所見：舌質は淡紅色。舌尖の潮紅，茸状乳頭のうっ滞あり。舌苔は黄白色膩苔（薄い）（写真2）。腹証：腹直筋をよく触知する（緊張はしていない）。胸脇部の抵抗（胸脇苦満）あり。その他，臍周囲（右）の抵抗あり。

「口は渴きますか？」

「はい」

診断：めまいといえば，どうしても先の苓桂朮甘湯に加え，半夏白朮天麻湯・五苓散などの利尿剤に手を伸ばすことが多い。しかし，この方に利尿剤を与える目標はあるのか？ もちろん，頓服的に五苓散を出す（標治）ことはよくあるが，本治としての方剤は何か？

『傷寒論』少陽病篇に「少陽之為病，口苦咽乾目眩也」を思い起こしてほしい。めまい・揺らぎ感は，なにも特別な症候ではなく，自律神経の乱れにはつきものの症候と考えられるのではないだろうか。

処方と経過：小柴胡湯エキス7.5g（分3）を投与する。薄紙を剥ぐように，揺らぎ感は改善していった。しかし，舌所見は相変わらず茸状乳頭のうっ滞と舌尖潮紅を示しており，△川さんが，毎日「きちんとしないと」と頑張っておられる様子がよくわかる。

症例3 めまいと高血圧

患者：○△夫，52歳，男性。

主訴：めまい。

既往歴：高血圧症（通院中）。

現病歴：20○△年3月上旬，仕事で多忙が続いていた。中旬頃，食事中にグラッときて（患者談），以後めまいの症状が始まった。近医（内科）を受診したとこ

る、血圧が188/100mmHgと上がっており、バルサルタン・アムロジピンベシル酸塩を投与され、4月には128/82 mmHg (平均) に落ち着いていた。しかし、めまいは改善しない。市立病院耳鼻咽喉科・神経内科を紹介され、諸検査を受けるも、特記すべき所見はなく、近医の紹介で当院を受診される。

「先生、私は血圧が上がったから、めまいや頭痛が起こっているものとばかり思っていたんですわ。でも、血圧はすぐに落ち着いたのに、めまいはいつも変わらずへん……。ポワーンとした感じで気持ち悪いんです。つらいです」

身長174.5cm、体重72kg。顔色は浅黒く、どちらかといえば元気そうな印象である。食欲はあるが、この方も仕事の関係で食べるスピードが速い。

漢方医学的所見：脈状：沈・細。舌所見：舌質は薄く淡白紅色である。白浄苔、亀裂あり（写真3）。腹証：腹力は軟。自発痛（-）、圧痛（-）。心下痞鞭あり。
診断：働き盛りの男性がこういった症状に悩まされることはよくある。注意しておきたいことは、男性更年期の存在である。女性の更年期症状は広く知られており、理解も得やすいが、男性の場合、まだまだである。今回、専門医（泌尿器科）にもコンサルテーションをお願いした。結果は、「問題ありません」とのことだった。よく、脾胃の症候について語られることがあるが、私は「食欲がある、ない」では捉えきれないと考えて

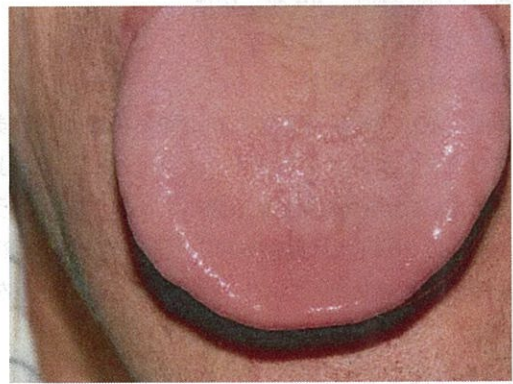
いる。あくまでもこういった負担がかかっているかどうか、に注目しており、症例1でもそうであったが、「食べるスピードが速い」のはリスクファクターの1つと考えている。

処方：四君子湯を軸にした半夏白朮天麻湯の適応であるが、舌所見から考えると補血の作用の薬方をどのタイミングで併せるか、が今後のポイントと考えている。

＊

「ようになりましたわ」は、私たちにとって何よりの言葉だが、未だ解決されていない課題にどう向き合うか、舌は答えを求めている。

写真3



医療関係者向けサイト

ツムラ漢方スクエア

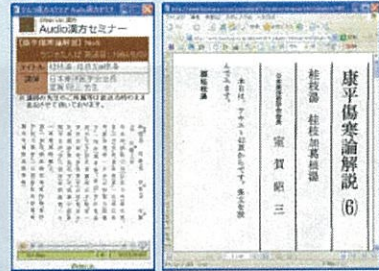
Audio漢方セミナー

1976年から1997年にかけてラジオたんぱにて放送された漢方医学講座など、2,000回近くの漢方関連番組をもとに画像も付けて「ツムラ漢方スクエア」より順次配信しております。

症候・疾患別漢方治療解説



康平傷寒論解説



● 著名な先生方による処方、疾患、古典の解説をストリーミング配信。

最新漢方情報が、カンタン操作で、今すぐ手に入る。

ツムラ漢方スクエア



株式会社 **ツムラ**

<http://www.tsumura.co.jp/>

● 資料請求・お問い合わせは弊社MR、またはお客様相談窓口まで。 ☎0120-329-970

(2008年9月制作)